

評価結果概要表

【評価実施概要】

作成日 平成19年11月23日

事業所番号	2775004332	評価機関名	特定非営利活動法人 近畿マネジメント・サポート・センター
法人名	有限会社 ほほえみ	所在地	大阪市東住吉区山坂5丁目5番14-103
事業所名	グループホーム ほほえみの郷	評価調査日	平成 19 年 11 月 16 日
所在地	大阪府東大阪市上四条町11-28 電話 072-980-7060	評価確定日	平成 19 年 11 月 24 日

【情報提供票より】(平成19年10月22日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年9月1日
ユニット数	2
職員数	15人 常勤 14人 非常勤 1人 常勤換算 14.4人
利用定員数	18人

(2) 建物概要

建物の構造	重量鉄骨 造り 3階建ての(2階~3階部分)
-------	---------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)税込

家賃(平均月額)	40,950円	その他の経費(月額)	27,300円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金を含む)	有(245,700円) 3年間均等定額償却	有の場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1月当たり	44,100円		

(4) 利用者の概要(10月22日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	2名	要介護2	3名		
要介護3	8名	要介護4	2名		
要介護5	3名	要支援2	0名		
年齢 平均	80歳	最低	66歳	最高	89歳
(5) 協力医療機関	若草第一病院・浅川クリニック くまざき歯科・東大阪市立 東診療所				

【外部評価で確認された、この事業所の特徴】

経営理念の「いつまでも、ほほえみうかべて暮らしたい」は毎朝、管理者によって強調されている。介護はベテラン常勤職員14名(非常勤職員は1名)によって行われており、利用者の皆さんは笑顔で過ごしている。利用者一人ひとりの症状は担当職員による見守りと、過去の聞き取りの積み重ねが介護計画の基本となり、日々利用者の能力を生かせるよう適切な介護が行われている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題と、その後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	入居者の整容と汚れについては、介護者の配慮により適正に行われ、健康感と笑顔ですごしている。薬品の保管管理は十分配慮され、服用も間違いのないように実施されていた。職員全員が指示されたことだけでなく、自由な発想と意欲で改善に取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	前回の評価を踏まえ、職員一同が、昨年よりすべての業務のレベルアップに取り組んで来たので、今回はその反省と新たな検討を行った。
	運営推進会議の主な討議内容、及び、それらを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
重点項目③	平成19年5月に第1回の会議を開催したが、開催にあたり出席予定者に対するオリエンテーションを何度か行い、グループホームについて、或る程度ご理解を得た上で開催に漕ぎ着けた。11月までに都合4回の会議を開催して来たが、今後は地元との交流促進を予定している。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
重点項目④	ご家族とは運営推進会議にて種々お伺いしている外、随時の来訪時にも付き添ってお話をしている。花見や車利用の外出、その他の行事などにも参加を勧められているが、ご家族からお伺いした内容について、管理者は直ちに運営者とも相談し対処を図っている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	運営推進会議で地元の各種組織との交流を行っているし、認知症介護の相談は随時実施している。組織として交流は、より一層進めようと検討を行っている。

（ 部分は重点項目です）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I 理念に基づく運営					
1 理念と共有					
	1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中で、その人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営者が長年の福祉事業管理の経歴を踏まえて、このホーム等の経営理念をつくり、毎日の運営に当たっている。		
	2	○ 理念の共有と、日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営者は発足に際し、分かり易いこの経営理念の実行を全職員に求めて、取り組んで来た。		
2 地域との支えあい					
	5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等の地域活動に参加し、地域の人々と交流することに努めている	運営推進会議にて現在まで関係の方々との交流を図って来た。今後は更なる交流を検討している。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者は日常の運営に当たり、職員の能力のレベルアップを重視し、臨時採用者ではなくて、常勤職員を採用してきた。このことが現在のホームの介護に現れている。		
	8	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について、報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスの向上に活かしている	運営推進会議は、現在まではホームの活動内容の説明が殆どだった。今後はより良い発展を期待している。	○	地元の自治会等の各種組織との交流は今後とも深めてください。地域の同じグループホームとの交流も図ってください。
	9	○ 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者の職歴から、今までも交流の機会があったので、引き続き行っていくことが出来る。		
4 理念を実践するための体制					
	14	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び、個々にあわせた報告をしている	ご家族へは、来訪時の会話をはじめ、機関紙にても案内している。	○	毎月の請求時にも短信で良いから、短く一言、添えてあげてください。
	15	○ 運営に関する家族等の意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在まで聞き取りにより改善を進めて来たので、これからも各種の要望には、素早く対処すること。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	9 18	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来、常勤職員の移動は最少限に済まして来ているが、今後も、働き易い環境を維持しようとしている。		

5 人材の育成と支援

	10 19	○ 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者をはじめ管理者も、職員の研修を重視して来た。更なるレベルアップの為にも努力しようとしている。		
	11 20	○ 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議開催に伴って、地域のグループホームとの交流の機会を待っている。		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1 相談から利用に至るまでの関係づくりと、その対応

	12 26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して納得した上で、サービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者と職員の、より馴染みを深めるよう図って来た。この関係はしばらく続けて様子を見ていく。		
--	-------	--	---	--	--

2 新たな関係づくりと、これまでの関係継続への支援

	13 27	○ 本人と共に過ごし、支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	上記と同じく、現在の職員との関係は続けて様子を見る。		
--	-------	---	----------------------------	--	--

III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1 一人ひとりの把握

	14 33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員によるモニタリング・カンファレンスにより、より良い把握に努めている。ご家族からの聞き取りによる情報も、適宜、記録ができ介護に役立っている		
--	-------	---	--	--	--

2 本人がより良く暮らしを続けるための介護計画の作成と、見直し

	15 36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	上記によるカンファレンスの結果を活かし、より良い計画をテストで様子を観察しながら、ご家族にも相談して決定している。		
--	-------	--	---	--	--

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	日々の見守りや、適宜に開催する職員のカンファレンスで、常に変化に対応している。特に期間が来たからではなく対応が行われている。		

3 多機能性を活かした柔軟な支援

17	39	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や、家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入所前からも含め本人、ご家族の多種多様な事情に、出来る限りの対応を実施している。		
----	----	---	--	--	--

4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

18	43	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られた、かかりつけ医と、事業所の関係を築きながら、適切な治療を受けられるように支援している	事情に合わせて、その都度、対応している。		
19	47	○ 重度化や週末期に向けた方針の共有 重度化した場合や、終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびに、かかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化についての基本的な対応文書を作成して職員の共有とし、また玄関に掲示している。	○	まだ未経験なことが多いことなので、今後とも検討を重ねてください。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1 その人らしい暮らしの支援

(1) 一人ひとりの尊重

20	50	○ プライバシー確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報や声かけ等に対する職員への研修や注意は、日常的に配慮されている。		
21	52	○ 日々の、その人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にならないように、注意しながら支援している。		

(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

22	54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者さんのリクエストは、日曜日のメニューで実施している。		
----	----	---	-------------------------------	--	--

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	23	57	<p>○ 入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		入浴は最低、週2回としているが、希望等の対応は、適宜に行われている。

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

	24	59	<p>○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		本人がやりたいこと、出来ることは自由として、やってみている。
	25	61	<p>○ 日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりの、その日の希望にそって戸外に出かけられるよう支援している</p>		事業所が坂道の途中にあるので、外出はスタッフが付き添って支援している。

(4) 安心と安全を支える支援

	26	66	<p>○ 鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中、玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		昼間は玄関ドアの鍵は掛けないので、スタッフは常に緊張の中にある。外出に気付けばすぐに付添っている。
	27	71	<p>○ 災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		消防署員の立会い1回と、別途に1回の自主避難訓練とで、年間2回実施している。

(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援

	28	77	<p>○ 栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		栄養摂取量と水分量は、チェックできている。
--	----	----	---	--	-----------------------

2 その人らしい暮らしを支える生活習慣づくり

(1) 居心地のよい環境づくり

	29	81	<p>○ 居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		季節感のある掲示物は職員が手伝い、皆で作るようにしている。室内は、落ち付いた雰囲気醸し出している。
	30	83	<p>○ 居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		道具類、家具等は入居者さんの個々の事情に合わせて、持ち込んでもらっている。